

フィンランドにおける保健科の教育課程

基礎教育

| 学年 | 第1・2年生 | 第3～6年生 | 第7～9学年 |
|------------------------------|--|---|--|
| 教科名(必修・選択) | 環境科(必修) | | 保健科(必修) |
| (1)教科全体の役割 (2)保健領域・教科のねらい | (1)①学習の意義、価値観、意識、②探究や実行力の育成、③知識及び理解 (2)保健領域では、環境と関連づけて、健康を支援・防御する活動や、衛生や安全及び健康の保持増進する内容の理解を必須で扱う | | (1)保健科では、環境と関連づけて、健康を支援・防御する活動や、衛生や安全及び健康の保持増進する内容の理解を必須で扱う |
| 内容 (●領域:「単元」) | ●発育・発達:「人体の各器官の機能の理解、人生の各段階と男女の発育・発達の違い、情意的技能と精神的健康の維持、自己と他者」 ●家や学校:「家の周りの環境の安全」「道路標識と交通安全」「外気と服装の選択」「体の不可侵権といじめ防止」「身の回りの清潔」「援助の求め方」●生きるために必要な基本的なものへの深い認識:「水、食べ物、空気、保温、ケア」「栄養や飲み物」「健康維持の習慣と実践」「幸福や喜び」●持続可能な生活:「廃棄物、リサイクル、分別」 | ●人としての私:「人の体の構造と機能、人の発育と発達」「二次性徴と相手を尊重した生殖に関する議論」「心とからの変化、期待・責任・態度や価値への気づき」「毎日の生活習慣、精神や病気の予防」「感情の理解・表現・調整」 ●生活や共同体:「車や火事、電磁波と安全、交通事故、食中毒、酒や薬物、水質汚濁、いじめ防止、体と心の不可侵権」「応急処置の仕方、恐怖やリスクのある状況での行為」●環境:「健康の見方・考え方と地域の環境」「環境を守る義務と責任」●自然の原理と周期:「食物連鎖」●持続可能な未来の創造:「持続可能な自然素材の使用、健康増進、現在と未来までも人にやさしい福祉、グローバルに考えローカルに参加する方法」 | ●発育・発達と健康:「易しい健康増進と病気の予防」「人の一生と発育・発達」「自己、自己イメージ、気づき、性発達、ケアの意義、家族と友人、精神衛生、自己評価」「安全の技能、相互作用の注意、感情の表現及び調整技能、感情のコントロール」「葛藤・問題状況・ストレス・危機の管理」●健康阻害と病気の要因:「健康的な生活リズム、睡眠、栄養、運動などの生活習慣」「セクシュアリティ、男女の性の異なる側面、性発達の多様性」「メンタルヘルス、健康を守る環境と共同体、レジャー活動」「安全の技能と能力、応急処置、自己管理、援助の求め方」「健康の指標や評価の信頼性」「能動的なライフスタイル、栄養問題や睡眠問題、ストレスによる健康被害」「若者の精神的苦痛や薬物依存の防止」「新興感染症と国民病の予防」●共同体、社会及び文化と健康:「思春期に必要な基礎的能力」「持続可能な生活様式、社会、思慮深い責任ある消費」「生活環境の健康への影響、健康の保持増進、病気の予防、公共の健康運動やサービスの利用の仕方、環境的健康危機への対処」「市民としての平等と参加、人権の尊重」 |

参考:フィンランド・ナショナルコアカリキュラム(2017年)

後期中等教育

| 学年 | 第1学年 | 第2学年 | 第3学年 |
|------------------------------|---|--|--|
| 教科(必修・選択) | 保健科(必修1単位、選択2単位) | | |
| (1)教科全体の役割 (2)保健領域・教科のねらい | (1)保健では、学際的な知識を基盤とし、健康、幸福、および安全を支える能力を促進させる。 (2)グローバルな視点から個人、共同体、社会における多次元の存在としての健康と病気の関連した現象を調査し評価できる。健康と病気のリスク、原因、行動のメカニズム、結果を説明する際に、科学的概念と生活的概念の間の意味の違いを理解できる。自分自身と環境の健康と安全を促進できるように、最も一般的な病気の予防と治療の原則を理解し、セルフケアやメンタルヘルスの保護に関連した実践ができる。健康情報、保健教育の概念を適切に使用し、健康と病気、コミュニケーション、および健康文化に関連した多様な現象や情報を解釈し、批評的に評価できる。健康に関連した倫理的な課題を省察し、それらに関連する見解を述べる事ができる。社会の健康や政策決定、及び両方が公衆衛生、人口集団間の違い、医療体制、人々の健康行動にどのように影響するのかを理解できる。 | | |
| 教科名と必修・選択 | 保健Ⅰ(必修) | | 保健Ⅲ(選択) |
| 目標 | ①健康リテラシーの促進、肉体的・精神的・社会的な要因が活動や機能に与える影響の理解、重要な生活や環境での達成度を評価できる ②健康や病気の情報を獲得、使用、評価し、健康文化やメディア、技術開発の現象に、倫理と健康の観点から反映できる ③科学的知識や生活知識の観点からの健康習慣や、健康や病気を説明する理論、モデル、現象を認識し、理解できる ④セルフケア関連の運用モデルと実践を適用できる ⑤個人と社会の視点から非感染症と最も一般的な感染症の重要性を理解し、発生した要因及び感染防止のために社会が取った決定を反映できる | ①心理社会的、人工的や自然環境など、どのような要因が遺伝子と環境に関連して、健康と機能的な能力に関連して影響を与えるかを知って評価する ②人生や発達のイベントを知って、行動や対処法を提示する ③健康、病気、安全と価値の熟考に健康リテラシーを適用できる ④ソーシャルサポートと健康への相互作用の重要性を評価し、メンタルヘルスに影響を与える主要な要素とメカニズム、および危機管理のための代替案を提示できる ⑤健康コミュニケーションに関連する現象を解釈して批判的に評価できる ⑥ライフスタイル、文化、環境において、健康と福祉が重要性な選択であることを正しく評価できる ⑦安全と暴力の防止に関連する要因を分析し、さまざまな対話型の状況、コミュニティ、環境における個人の境界を尊重し保護することの重要性を理解できる | ①人口や社会条件、社会政策、技術が保健サービスや健康に与える関連性を記述し、その変化と発展を分析できる ②フィンランドおよび世界の健康と健康の不平等に影響を与える要因を評価し、健康の不平等を減らす要因を説明できる ③健康に関連する研究知識と日常情報を取得し評価でき、小規模な健康調査や機能的な能力の測定を計画できる ④病気の予防と治療だけでなく、科学的研究によって提供される健康増進の例に触れる ⑤健康や病気の倫理的な問題を省察できる ⑥世界的な健康問題と健康増進に専念する組織の役割と任務を認識する |
| 内容「単元」 | ①「肉体的・精神的・社会的な能力と勉強や活動及び機能:健康を増進する身体活動、栄養、体重の管理、睡眠と休息、性的健康、学校生活における健康」 ②「自他のセルフケアと応急処置」 ③「自他のタバコ、アルコール、薬物、ゲームおよびオンライン依存症への対処」 ④「非感染症と主要な感染症」 ⑤「健康、健康習慣、健康問題を説明する生物・心理・文化的な現象と理論及びモデル」 | ①「遺伝子、自然環境、人工環境、ならびに心理社会的環境およびコミュニティなどの健康への影響」 ②「健康と人生、人生の一環としての死」「対人関係とソーシャルサポート」 ③「セクシュアリティと性的権利、および性と生殖に関する健康」 ④「メンタルヘルスの保護と発生要因」 ⑤「危機とその対処」 ⑥「人間工学と労働」 ⑦「安全と暴力の防止」 ⑧「メディアと文化的環境と健康コミュニケーションの重要性と批判的思考」 | ①「社会的状況、人口、健康政策、科学的研究、健康概念、テクノロジーが健康を促進し変貌させ結びつけること」 ②「医療系機関と社会保健サービスの数と役割の発展と変化」 ③「フィンランドと世界の健康格差に影響を与える要因と減じる要因」 ④「健康行動と健康の研究」 ⑤「健康と病気の患者の権利に関する倫理的で法的な問題」 ⑥「健康に影響を与える世界的な健康問題」 |

参考:フィンランド・ナショナルコアカリキュラム(2018年)